



国 労 仙 台

No. 2548
2009年5月12日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

二度と惨事を繰り返さない

宮城・福島で 安全問題を検証する集会

地方本部は4月24日、宮城・福島両県において、安全問題を検証する集会を開催した。
この集会は05年4月25日、鉄道史上最大の惨事となったJR西日本福知山線で発生した脱線・転覆事故、同年12月に発生したJR東日本羽越線での脱線転覆事故、翌年1月、西日本伯備線で発生した作業員触車死傷事故に鑑み、二度とこのような悲惨な事故を発生させないため、職場の安全問題に対する取り組みの強化を図ることを目的として開催されている。

宮城県集会から

4月24日、80名を超える仲間が集った「4・25安全問題を検証する集会」がこくろう会館で開催された。

冒頭、福知山線での犠牲者107名と、以降発生した事故の犠牲者に対する黙祷が捧げられた。

主催者を代表して橋本地方本部委員長は、①09春闘、新入社員獲得などの取り組みに対する感謝②規制緩和が2000年から実施され、車両や設備メンテナンス部門に導入された結果、行き過ぎた合理化による事故や輸送混乱につながっている③事故の教訓に学び安全問題を追



挨拶する橋本委員長

及し続けていくことが大切であり、「安全問題プロジェクト会議」はそのために設置をした等のあいさつを述べた。

安全問題プロジェクト会議からは、この間の16回に及ぶ会議の開催とその中で活動経過、今後の課題について提起がされ、引き続き全体で事故撲滅を目指し、後を絶たない事故等に関する情報を「会議」に集中して

問題提起 電気協議会より

集会では、この間「安プロ」で取り上げてきた問題の一つである、昨年9月に発生した黒磯駅構内における感電死亡事故について、仙台地本電気協議会千葉議長から報告を受けた。

同議長は「05年に発生した奥羽線環金トンネルでの感電死亡事故と同じ『日本電設』の協力会社での事故であり、2年9ヶ月で同じ感電死亡事故が起きている点では対策が機能していないことが明らかであり、元請だけでなくJR本体の責任も大きい。本日、関連する申入れに基づく団体交渉を開催したが、会社側担当委員の不在で十分な議論が出来なかった。再度、具体的問題を指摘し、実効性のある対策と職場の安全確保に結び付けて行きたい」と決意を含めた報告を行った。

国鉄闘争報告交流集会

4月4日(土)福島県郡山市ビッグアイに於いて、郡山地区連帯する会主催による「国鉄闘争報告・交流集会」が開催された。同会は、「国鉄闘争」の闘いの節々で地区集会・交流会等を開催し、情勢認識を確認してきており、今回もその一環として取り組まれ、集会には86名の仲間が参加した。

郡山地区連帯する会が主催

集会は斎藤幸次会長を始め来賓各位の挨拶の後、鉄建公団訴訟原告団酒井団長と国労仙台地本大沼書記長から国鉄闘争の現状と裁判闘争の報告を受けた。

その後職場報告として、郡山駅連合分会の七海弘昌氏と貨物福島分会の橋本吉孝氏から、それぞれ「分割・民営化」以降のJRの職場実態が報告され、交流を深めた。また、闘いの報告として、郡山のパナソニック電工で17年半働いてきた佐藤昌子氏より、昨年9月に解雇され撤回の

闘いに立ち上がった佐藤昌子氏より「立ち上がれない・声を出せない人が当たり前になり立ち上がれる様に…我慢したり泣き寝入りしない様に、そうした条件を作る事が私の闘いの目標の一つ」と力強い決意を受けた。



【報告者：郡山地区連帯する会 高橋 寛氏】＝国鉄闘争団闘会『国鉄闘争報告・交流集会』報告から一部抜粋・転載。全文は以下のサイトから (<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~tomonigo/>)

元気の源は学習と交流 レポート 青年・婦人・家族中央行動

3月19日、09国労青年・婦人・家族中央行動が開催され、仙台からは家族会の真屋さんと私が参加。行動は、午前中に中野麻美弁護士による『労働者派遣法の士による』が東日本にも1500

人採用されているが、5年で雇用が打ち切られる制度であり、国労も全体の問題として受け止め正社員化を求める署名を取り組んできたところ。身近な仲間の労働条件を改善させるためにも、均等待遇を求め労働組合がしっかりと取り組まなければならないと、再度実感。全体交流では、青年部の

4・11	婦人部常任委員会	4・24	安全問題を検証する集会
4・14	地方執行委員会・闘争委員会	4・24	団交(安全問題での申し入れ・申8号)
4・15	団交(09年度総合車セ関係業務改善・申21号積み残し)	5・1	メーデー
4・18	アスベスト対策委員会	5・10	09春闘中間総括会議

明るく前向きな発言、闘争団家族の声にたくさん元気が勇気をもらいました。午後は新橋支部の仲間とデモ行進。『不採用問題の早期解決』と『春闘勝利』を大きくアピールしました。最後に、青婦家中央行動成功に向けたカンパは地本で24,050円を集約。全体のカンパにより学習と交流、そして大衆にアピールでき、元気が勇気を与えられたことに感謝し報告とします。【婦人部・佐藤】

退職のお知らせ

- 3月31日
 - 渡部彦一さん 若松地区分会 (保線)
 - 穴戸和男さん 東北工事事務所分会 エルダー
 - 菅原忠志さん 小牛田駅連合分会
 - 佐藤敏勝さん 郡山駅連合分会 エルダー
 - 安齋孝さん 若松地区分会 (保線)
 - 志賀俊則さん 仙台宮城野運輸区 エルダー
 - 日野吉政さん 東北工事事務所分会
 - 田代修司さん 若松地区分会 (保線)
 - 4月30日
 - 金野 朗さん 小牛田駅連合分会
- 長い間お疲れ様でした

地電協 安心して働き続けられる環境を

4月18日、こくろう会館に於いて、第15回国労仙台地本電気協議会定期委員会が開催された。

委員会は大橋事務長の司会で開会し、議長には小野委員（貨物福島）を選出し、議事に入った。

冒頭挨拶に立った千葉議長は「今日の金融危機・世界同時不況は、日本経済にも深刻な影響を及ぼし景気後退を理由に数多くの労働者が解雇と同時に路上に放り出された。またJR電気

職場では、①設備メンテナンス以降の職場の問題②職場における技術継承、技術力の低下の問題③平成採・若年者への対応④貨物会社での購入券割引制度の廃止による負担増⑤組織の強化・拡大等の課題が山積している。安全・安定輸送、安心して働き続けられる職場環境の確立が図られるよう各委員の真摯な発言・討議を要請する」と述べた。

来賓として東日本電気協議会中沢議長、盛岡・佐藤議長、秋田・佐々木議長、仙台地本橋本委員長から、それぞれの立場で問題提起とこれまでの闘いの経過や取り組み等が報告された。

委員の発言から

◆平成採が職場に入り活性化したが、現場に出て自分は何をすべきかわからな

い。工事監督を年に3件するように言われているようだが、資料が何も渡されていないという。安全も含め会社はしっかりと教育をしてからMCに出してほしい。

◆過日鍋田踏切で事故が発生、見通し距離の関係で不具合箇所は即修繕、昨年は保安監査に向けて多数の修繕をしたが、通常検査や雪害報告での修繕依頼をして実施されない実態にあり改善を。【新庄連合】

◆自動車運転が若手に固定化されつつあるが、長距離運転も多く安全の問題もある。年配者は手当支給がないから運転したがらない。運転手当を支給するよう制度要求を。

◆4月2日、奥羽線南陽市鍋田踏切で死亡事故が発生。当日にデータ解析し、翌日に「信号には不具合はなかった」と報告。事故調査委員会が発足し、見通し距離800mは大丈夫と。しかし科長等が臨時列車を走らせて確認したら3〜4百mしか無かった。河北新報には「見通し距離が取れていれば死亡事故は防げたかも」との記事が掲載された。仙台投では、事故が起きなくても検修項目を追加し見通し距離検査を行う予定であった。【仙台信通】

◆新人・若手は技セに一年

間各科を3ヶ月毎に廻っているが、その後すぐにMCに廻されても困る。オートマ限定や軌陸車を運転出来ない者が多く、会社が資格を取らせてからMCに廻して欲しい。

◆若手は研修が非常に多くMCの要員が少なくなり、結果的に技セから助勢となれば本来業務が出来ない。◆若手は、業務以外にも色々な報告やレポートが多すぎてこぼしている。【仙台電力】

◆保全職場は多職種にわたる寄せ集め状態にある。若手と中堅は半々。管理者は広域な異動があり、乗車券割引制度廃止は厳しい様子。◆10年連続ベアゼロ、それより55才で30%減は痛い！「ばかばかしくてやってられない」と、先輩が今年退職した。

◆若手は障害が発生しても何をしたら良いのか分からない。外注化で設備に慣れてなく自分達が教えるしかない状態。会社の教育は？◆糖尿病と診断され投薬を続けて回復したが、現場に出れない実態。JR病院は基準が厳しすぎるのでは？【貨物宮城】

◆22年ぶりに地元に戻った。平成15年に新型検測車が導入されたが、磨耗管理や高さ・偏位も検測車。回交整

理は最後には必要により現場確認と思うが、現状は要注データの発生、即至近距離検査の実態ではないか。

◆最近、「至近距離検査の際に支持物毎に止まって検査をしてもええないか」という声が技セの助役から聞ける。回交の仕切りを守る事が重要ではないか。

◆競合把握システムが滞って線閉中止が一度や二度ではない。試使用でも職場は大混乱である。実際に使えるようなシステム改修が必要不可欠である。【福島地区】

◆福島でケーブル切断事故が発生。東労組は連日集会を開催、内容は「組合員は我々が守つてやる」的な内容だと言う。分会は「要請

新役員のみなさん

- | | |
|-------|-------|
| 議長 | 千葉 薫 |
| 副議長 | 堀切 彰 |
| 事務局長 | 大橋 康 |
| （分科長） | |
| 幹線電力 | 立山 昭仁 |
| 在来電力 | 橋本 幸一 |
| 通信 | 梅宮 繁 |
| 幹線信号 | 佐々木 照 |
| 在来信号 | 小林 康広 |
| 貨物 | 木元 敏彰 |
| 事務 | 佐々木 茂 |
| 会計監査 | 長谷川義浩 |
| 会計監査 | 島 修二 |

以上の役員体制で向こう一年頑張ります。よろしく願います

地本工務協役員会から

文」を発したがクレームが付き「声明」に！その後は尻切れトンボになって、現在鍵の管理の徹底をしている。

◆新採対策は今年名刺とパンフの配布をしている。◆鍋田踏切事故の対策は、特殊信号発光機（LED）が本体のみ踏切に設置されている箇所について広角タイプ（視認性向上）に交換する工事を計画している。【郡山信通】

4月12日、こくろう会館において、国労仙台工務協議会の役員会が開催された。会議では、工務協議会遊佐議長からの職場実態報告と、郡山での待避誤り、小

牛田での汽笛吹鳴を受けた事象についての報告と問題提起を受け、各役員からは職場のシステムの問題点や安全問題について集中的に議論がなされた。

競合作業把握システムの問題

◆新幹線は競合作業把握システムから除外されており、保守用車が在来線（山形新幹線）から新幹線に乗り入れる場合、またその逆の場合、二重手間になるなど煩雑になっており、大変さだけが残る。

◆導入の目的が良く理解できない。しかし現実的にはとても仕事に影響しているが、現場の科長自体が取り

扱いも含めて良く理解していない状況。

◆分かる人と分からない人の差が大きい。◆試行導入する前に、全員に対して教育し、同じレベルから始める体制を取るべきである。

◆各保技セでのやり方が違うため、統一したやり方を指導すべき。◆会社線の列車番号が出てこない。◆ビックロモが連休の場合、

確保出来る筈の拡大間合いが削られてしまう。◆電報手配の列車、変が付く列車等、前日でもシステムに反映されない。◆仙台支社は試行で行う状況が多すぎる。隣接する支社の制度やシステムが違う状況をしっかりと把握し、支社間の問題を解決してから実施すべきである。

新型トラムスの問題

◆仙建内では、プロパーの人が教育に行っているが、出向者である自分達には何の説明もない。やつとパスワードで立ち上げることが出来るようになった。◆「やりながら覚える」では進まない。仕事しながらは出来ない。

◆今後の担務変更や異動時の引継に問題が残る。◆パソコンが多くて、仙台新幹線保技セ、新庄保技セでは、電源（ブレーカー）

が落ちる。消費電力を考慮し、適正な台数を配置すべき。◆ロムで単価が違っている問題も。

安全問題

◆磐城東線には、TC型列車接近警報装置がない。取り付けできない問題。◆原則線閉での作業だが、実態は違う状況。間合いもなく、人もいない。

◆退職で3名減だが後補充なしで仕事量増えている。結果的に仕事優先となり安全がおろそかに。単線区間の保安体制が取れない。

◆無線機が老朽化で使い物にならない物もある。自己診断機能付き無線機は現在製造されていない。安全、安全と言うが支社はこう考えているのか。

◆作業内容は名目と実態は同じにすべきである。

地方本部業務部から

※無線機の問題等、安全問題に関しては、直ちに取り組みをしなければならぬため、仙地申25号で申し入れを行っている。

競合把握システム、新型トラムス、今冬期の問題に関しては工務協で集約し地に提出を要請する。ビックロモの問題点関係は東日本本部に提出済み。